



『見えないものに目を注ぐ大切さ』

2026年が明け、あっという間に2月ですね。ということは…あと2か月後には、両国駅前分園（つぼみ組0歳児）に新しく入園してくる子どもたちの元気な泣き声でにぎわうことでしょう。新しい出会いと、別れの季節が近付こうとしていますね。

つぼみ組の子どもたちと散歩にでかけた時のかわいいエピソードです。

どこからか「ピピッ」「ピピピ」と小鳥のさえずりが聞こえてきました。すると上を向いて小鳥を探し出す子どもたち。保育者も一緒に探しますが、なかなか見つからず…。再び、鳴き声が聞こえ保育者が先に小鳥の姿を発見。「居たよ～。あっちだよ」と指差しで伝え、それを子どもたち見て、指の先を探します。「あった～!」「いたいた!」と子どもたちも見つけることができ、しばらく小鳥を見ていると、指をさしながら「いく!」と言うAさん。Aさんには小鳥のいる高いの木の枝にも自分が行けるイメージを持てたのでしょう。私もとっさに「行こう」と声をかけ、手を羽のようにバタバタ動かし、ジャンプをし、鳥になりきってみました。それを見た子どもたちはすぐにまねっこ。かわいい小鳥になりきっていました!

つぼみ組の1年は目に見える成長が本当に著しいですが、実際は目では見えない気持ちや言葉にならない想いを傍にいる大人がどう感じ取るかがとても重要です。小鳥になれると感じた子どものように、“何にでもなれる”と自分を信じて力強く生きていける子どもたちになって欲しいと願って、これからも見えないものに目を注ぐことを大切にする保育にこだわっていきたいと思います。

長いようで、短い子育て期間。抱っこのできる時期、手をつないで隣を歩ける時期、手を掛ける時期が過ぎた時にこそ、見えない子どもの心の支えとなっていくのです。

反抗期を迎えた我が家の子どもたちにも、母の見えない愛にいつか気付いてくれたら…と思う日々です。

『わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです』(コリントの信徒への手紙Ⅱ4章 18 節)

副主任（分園） 鈴木 亜優美

<2月の予定>



2日（月） 避難訓練

5日（木） 誕生会



9日（月） ゆり組懇談会



12日（木） ちゅうりっぷ組

保育参観・懇談会



13日（金） ばら組懇談会



16日（月） 新入園児 ZOOM 説明会



19・20日（木・金） 新入園児面談



保育継続確認書の締切は2月13日（金）です。
よろしくお願いいたします。

<新年度土曜保育・延長保育について>

ご希望の方は、事務所に書類を取りに来てください。申請書と一緒に在職証明書を提出していただきます。

つぼみ組
(0歳児) 低月齢



「あ〜ん！ いっぱいたべて☆」



絵本が大好きなつぼみ組のこどもたち。「いただきますあそび」の絵本を読むと、おにぎりやウインナーの絵をつまむようにして“モグモグ”と口を動かしながら保育者の口元に“どうぞ”と食べさせてくれます。「おいしいね」と保育者も“モグモグ”すると、“これも食べて” “もっと食べて”と次々とお腹がいっぱいになるまで食べさせてくれました。時々、犬や人の絵もつまんで食べさせてくれようとする姿も面白くて可愛らしいです。



「いただきますあそび」
出版社・偕成社
作者・木村裕一

つぼみ組
(0歳児) 高月齢



「つぼみ組の小さなシェフ」



高月齢スペースにおままごとコーナーを用意しました。子どもたちがちゃぶ台を囲んで、「メン！（アーメン）」と手を組んで食事の前のお祈りをする姿や、麺に見立てたチェーンをザルに入れて洗う仕草が見られています。

保育者がAさんの腰にバンダナを巻くと、シェフのような姿になって忙しそうにお皿を持ち、ちゃぶ台とおままごとの棚の間を行ったり来たりしていました。“何を作っているのかな？”と見守っていると、椅子に座っていたBさんに「どうぞ！」と渡します。

Bさんは、お皿に入ったチェーンを玩具のスプーンですくって食べる真似をして「おいちい！」と頬を手のひらでトントンしながら“おいしいポーズ”をしていました。

その姿を見てつぼみ組の小さなシェフ♡のAさんは嬉しそうにしていました。

もも組
(1歳児)

「オオカミごっこやろう」

ゲートボール場に行く途中、Aさんから上記の言葉が。その日は風が強く、気温も低めではありましたが、保育者とオオカミごっこを始めました。すると友だちが集まり、“おうち”にしているバギー2台の間は、ぎゅうぎゅうです。子どもたちがワクワクした顔でオオカミになっている保育者のセリフを待っています。「トントントン開けておくれ、お母さんだよ。パンを買ってきたよ」と言うと、すぐに入れてくれますが、「オオカミだぞ、食べちゃうぞ〜」と言うと「きゃ〜！！」と言って逃げ出します。Aさんと半数の子どもはオオカミから逃げるのを楽しみ、他、大笑いする子ども、オオカミに捕まって食べられるのを待つ子どもなど様々。でも皆言うのは「もういっぱい！」…何回繰り返したでしょう。クラス全員でイメージを共有してあそべるのが楽しかったのですね。クラス全員で30分近くあそび、身体がポカポカになりました。帰り道も「オオカミごっこ楽しかったね」と言い合って友だち同士ニコニコでした。

かるたブーム到来！！「いろいろかるた編」

現在 2 歳児クラスでは “いろいろかるた” が流行っていて毎日「いろいろかるたやりたーい！」と楽しんでいます。最初は、保育者中心に進めていたのですが、最近は保育者なしで「みんなでやるから～」と子どもたちだけで進めていく姿が多いです。



「いろいろかるた」とは…

読み札がなく、絵カードのみ。

「いろいろかるた パチパチ（拍手）〇〇（物の名前）！」の掛け声で言われたカードを探して取ります。



保育者中心に進めていた際に、動物や物の名前を確認の意味で、カードを並べて行く時に一枚一枚「これ、な～んだ」と見せながら聞いていきました。すると、子どもたちだけで楽しむ時にも「これ、な～んだ♪」と聞くところから始まっています。保育者の再現を完璧に行う子どもたち。すごい！だけど、保育者はなんだか恥ずかしい…笑

かるたが始まると取ろうとどこまでも手を伸ばして頑張っています。そして、「とれたー！」と大事に両手で持っている可愛らしい姿も見られます。取れなかった時は悔しくて「うー」と泣く姿もありますが、「取りたかったね、悔しかったね～。次、頑張ろう！」と声掛けをしていくと、回数を重ねるにつれ、悔しさを糧に「次は取るぞー！」と楽しむ様子が見られるようになってきました。また、友だち同士でやる際にAさんが「ぞう！」と言って、みんなが探している中、中々見つからないと優しさから「ここだよ～」と教えている姿や仲良しのBさんに「はい！」と渡してあげる姿も見られていますが…手が重なった時には下の手の人がカードをもらおうというルールを理解はしており、手の位置を見て「Cちゃんだね！」などとみんなで確認し合う姿もありますよ。さらに、カードが取れた際に、「わぁ！すごい！やったじゃーん！」と褒め合うこともあって、そんなこともできるようになってきたんだなあ～（*V-V）と成長を嬉しく思うと共に毎回ほっこりさせてもらっている保育者です。



さくら組 (1歳児)

ある日…保育者とAさんであそんでいると、Aさんが突然「おかいもの、いってきまーす」と言って、保育室の端まで歩いて行っていました。保育者はその場で「いってらっしゃーい」と言って待っていると…BさんCさんDさんEさんもその姿をみて「おかいもの、いってきまーす」「ばいばーい」とお買い物へ。しばらく待っていると「みるくかってきた」「かってきた」などとそれぞれお土産を手にして戻ってきました。中には赤ちゃんを連れてきた人も…(笑)一人が何かを始めると“たのしそう”と同じことをするようになってきた子どもたちがとても可愛く成長を感じる瞬間です☆

ちゅうりっぷ組 (3歳児)

続きをあそぶために！

年が明けてみんなが揃い始めたころからブロックコーナーに新しく“とっとくカード”を用意しました。今までもブロックで作ったものを棚に置いておくことはできたのですが、特に制限は設けず、作ったものを好きなだけ棚に置いていた子どもたち。週末にはブロックをすべて片付けているのですが、週明けの朝には棚がいっぱいになるほどでした。また、誰が作ったものなのかわからない、自分の物ではないものを間違えて使ってしまう等が起っていました。そこでとっとくカードの登場です。決まりごとは大きく分けて3つ

・置いておくのは作ったもの！・置いておけるのは1つ！・あそぶ時はカードを元の場所へ戻す！

です。ちゅうりっぷ組で生活をして約9か月、これまでと違うシステムの導入に混乱してしまうかと思ったのですが、思いのほか子どもたちはすぐに慣れて、棚もスッキリ！さらに自分が作ったものが明確になったことで、次回あそぶ時にブロックを追加していき、数日かけて大きな作品を作る姿が増えました！ブロックで何かを作ることが大好きな子どもたちが多いので、これをきっかけによりブロックあそびが充実したものにできればいいなと思っています！

ゆり組 (5歳児)

朝食インタビュー始めました 🍷 🌟

食事の前の時間に、日替わりで3人ずつ“朝食で何を食べてきたか”を発表しています。発表する人は「赤：体を作る」「黄：エネルギーを作る」「緑：調子を整える」この3種類のカードを持ち、発表したものを元にみんなで“何が足りていて、何が足りていないか”をみんなで考えています。子どもたちに聞いてみると「全色揃うように食べてきた！」とバランスを意識する姿や、昼食時に「保育園の食事は毎日全色揃っている！」という気付きがあり、子どもたちの中で“食”に対して意識が少し変わってきている様子もみられます。忙しい朝かと思いますが、ご家庭でも一緒に考えるきっかけになれば嬉しいなと思います。

グループ替えをしました 🎵

子どもたちから「グループがえしないの？」という声もあり、園生活もあと数か月…ということでグループ替えをしました。今までと1番違うのは“くじ引き”ということで、子どもたちはドキドキわくわく♡くじを引いた後に一人ずつ席につき、ご対面！「いえ～い！」「また一緒だね♪」と盛り上がっていました。最初に行う活動は、グループ名を決めることです。一人が提案したものに「それいいね！」と賛同してすぐに決まったり“あれは嫌、これも違う”と数日かけて話し合うグループもいたりしつつ、みんなが納得のいく名前が決まりました♪もう一度グループ替えがあったり、なかったり！？

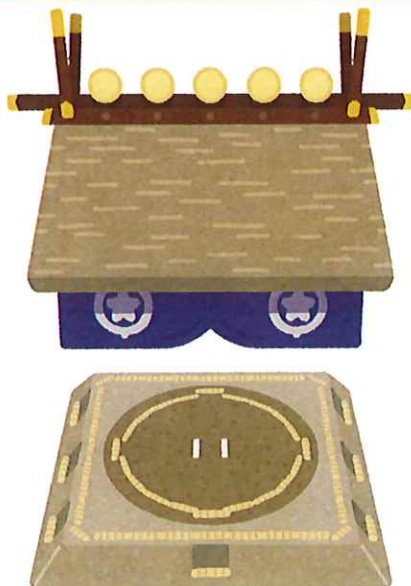
ばら組
(4歳児)

国技館はお散歩コースでーす！？

お相撲好きの子どもがたくさんいるばら組では、不定期にばら組場所が行われています。両国国技館では初場所が始まったある日、「両国国技館に行きたい！」という声が上がりました。せっかく行くのならば初場所中に行って、あの雰囲気味わわせてあげようと、散歩で行くことにしました。とはいえ国技館までは2キロ弱、本当に行けるのか？いや、行けても帰って来られるのか？とドキドキでしたが、子どもたちの足取りは軽く、担任が驚くほどでした。

これまで図鑑やテレビでしか見ることのなかった色とりどりの幟旗、大賑わいの正面玄関、櫓から聞こえる寄せ太鼓の音、国技館入りする力士たち、大勢の観光客や修学旅行の学生たち…。どれもとても刺激的でした。予想通り「中に入りたい！」という声が聞かれましたが、残念ながらもちろんそれは叶わず、代わりに？江戸NORENの原寸大の土俵を見て帰ってきました。改めて日本の伝統文化に触れ、それを身近に感じることでできた特別な散歩となり、子どもたちも大満足。そして、何より行けたことが大きな自信となりました。担任の心配をよそに「全然疲れなかった～」と得意気な子どもたちでしたが、その日のお昼寝は、みんな爆睡でした。

これからも子どもたちの力を信じて、やってみたいを実現すべく、一緒に『楽しい！』をみつけていきたいと思います。



ほけん

吐しゃ物で汚れた服を持ち帰ったら・・・

冬はノロやロタなど嘔吐を伴うウイルス性感染症が流行しやすい時期です。もし感染性の吐しゃ物で服が汚れてしまった場合は、安全のため洗濯に加えて消毒が推奨されています。厚労省 HP では確実な方法として塩素系漂白剤を使うとされていますが、これでは色落ちしてしまいます。熱湯消毒は生地が痛みます。最も安全で確実な方法は、触らずに捨てることですが、お気に入りの服は捨てがたい・・・という場合は、ご自身が感染しないようメガネ、マスク、エプロン、髪を覆うものを装着し、汚れた服は溜めた水に入れ水面下で吐しゃ物を落とすようにしてください。シャワーや流水では吐しゃ物を含んだ水が人や周囲にかかるためお勧めしません。またエプロンは大きいポリ袋を使うなどして装着したものは使い捨てできるものがよいでしょう。作業後は手洗いを忘れずに！



おしょくじ

大豆を知ろう

2月3日は節分です。節分といえば、数え年の数だけ豆を食べることで新しい年の健康と幸せを願うという習慣があります（ただし窒息の恐れがあるため5歳以下の子どもには与えてはいけません。）。そこで今回は大豆について触れてみましょう。



大豆の栄養パワー

大豆の主成分は良質なたんぱく質です。そのほか、ビタミンやミネラル、脂質も含んでいます。また、骨粗しょう症に予防に役立つイソフラボンや、腸内環境をととのえる大豆オリゴ糖などの成分も含んでいます。



大豆からできる食品



豆腐



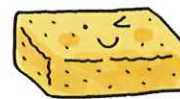
油揚げ



おから



納豆



生揚げ（厚揚げ）



豆乳



しょうゆ



みそ

いろいろな大豆加工品から、大豆を取り入れられるとよいですね。

＜地域交流活動「世代間交流」＞

1/22（木）、1/23（金）は、地域のおばあちゃんがすみれ組とたんぽぽ組に遊びに来て、絵本を読んでもくださいました。優しい笑顔とゆったりとした雰囲気、子どもたちもほのぼの。2月も企画中です。



＜交通安全教室＞

1/22（木）本所警察署の方をお招きし、ゆり組、ばら組を対象に交通安全教室を行いました。保育園内に信号機が登場し、子どもたちが横断歩道を渡る練習などしました。

おひさまぶんこ

毎年のクリスマスに、(元)サポーターの鹿子先生から絵本のプレゼントが届きます。鹿子先生は昨年退職されましたが、2025年のクリスマスもまた、素敵な絵本を届けて下さりました。

いつの年も光の園の本棚には無い新しく面白い絵本を選んで下さり子どもたちが目を輝せながら保育者に読んでもらったり、仲間と共に広げたり、一人でじっくりと読んでいたりしています。

おひさま文庫には置いていないものがほとんどですが、いただいた絵本の紹介をします。

「フンタンピクニックららら」

「フンタンたいそう1.2.3」

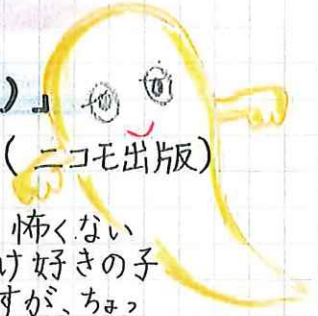
作、キヨノサチコ (偕成社)



0, 1歳クラスの子どもたちにとってフンタンは等身大のお友だち。フンタンと一緒にピクニックに出かけたり体操をしたりを楽しんでいます。

「おばけのおにぎり」

作、塚本やすし (ニコモ出版)



おばけはおばけでも怖くないおにぎりおばけ。おばけ好きの子にはもちろん大人気ですが、ちょっぴりおばけが怖い子も興味を示しています。

「ぼくのいえ」

作、鈴木のりたけ (PHP研究所)

こんな家があったら住んでみたい。

「私はこのおうちがいい」

「ぼくはここに住もうかな」

「せんせいはどのおうちにする？」

皆でわくわく広げています。



「ナンデコンナでんしゃ」

作、澤野秋文 (ひさかたチルド)

電車に乗って おばあちゃんの家に行こうとしたボクは、電車に乗っている途中不思議な世界へ迷い込みます。開く度に新しい発見があり繰り返して楽しんでいます。

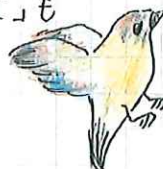
「ないしょのおともだち」

文、ビバリー・トノフリオ やく、福本美子
絵、バーバラ・マクリントック (ほるぷ出版)

マリーという女の子とネズミの女の子の住む世界が同時進行で広がっていきます。

読み手がその二つの世界を覗かせてもらうこの絵本はまるでアメリカの映画を観ているような気持ちになります。

おひさま文庫には、この絵本と続編の「ないしょのかくれんぼ」もありますよ！



「鳥は恐竜だった」

作、鈴木まもる (アリス館)

おひさま文庫でも人気の絵本「ピンポンバス」や「せんろはつづく」シリーズで有名な作者の鈴木まもるさんは実は「鳥の巣研究家」としても知られています。

鳥の巣から見える新たな恐竜全滅の见解にわくわくできる一冊。

恐竜好きにはもちろんですが、鳥好きや恐竜にはそれほど興味の無い子も見入っています。

おひさま文庫にもあります。大人が読んで面白いです。



0歳児 つぼみ組

- ・友だちと触れ合うことを喜ぶ。

1歳児 もも組・さくら組

- ・気の合う友だちと一緒に好きなあそびをしてみる。

2歳児 たんぽぽ組・すみれ組

- ・イメージを共有してあそび、友だち関係を深めていく。

3歳児 ちゅうりっぷ組

- ・友だちと一緒にいろいろなあそびを楽しむ。
- ・寒さに負けず、戸外で身体を動かしてあそぶ。

4歳児 ばら組

- ・冬の自然に積極的に関わり考えたり試したりしてあそぶ。
- ・友だちと一緒にルールを決めたり、考えたりして関わりを深めていく。
- ・異年齢の友だちと関わるなかで憧れ、優しい気持ちを持つ。

5歳児 ゆり組

- ・仲間意識が高まる中で、お互いを認め合いながら楽しくあそぶ。
- ・年下の友だちにあそびや当番活動を伝えていく。